

平成26年度研究成果中間報告書<<平成26年度指定教育課程研究指定校事業>>

都道府県・ 指定都市番号	29	都道府県・ 指定都市名	奈良県	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成，指導方法等の工夫改善を中心とする生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに関する実践研究 協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究				
学校名（生徒数）	奈良県立登美ヶ丘高等学校（717人）				
所在地（電話番号）	〒631-0008 奈良市二名町1944番地12 Tel (0742) 46 - 0017				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.nps.ed.jp/tomigaoka-hs/">http://www.nps.ed.jp/tomigaoka-hs/</a>				
研究のキーワード	1) 郷土学習            2) 単元の配列            3) 探究的な学習活動 4) 協同的な学習活動            5) コミュニケーション力の育成				
研究成果のポイント	自ら考え、判断し、主体的に行動する能力及び探究する力や、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを発信するコミュニケーション力を身に付けることを目指す。これらの能力は社会人基礎力の大切な要素であり、キャリア教育においても欠かすことができないものである。そのような力を各単元で身に付けさせるために有効な構成や配列を研究する。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

郷土学習「奈良 TIME」を通して、探究する力やコミュニケーション力を生徒に身に付けさせるために有効な単元内容とその配列について検証する。

\*郷土学習「奈良 TIME」：奈良県における全ての県立高校が平成25年度より取り組む活動

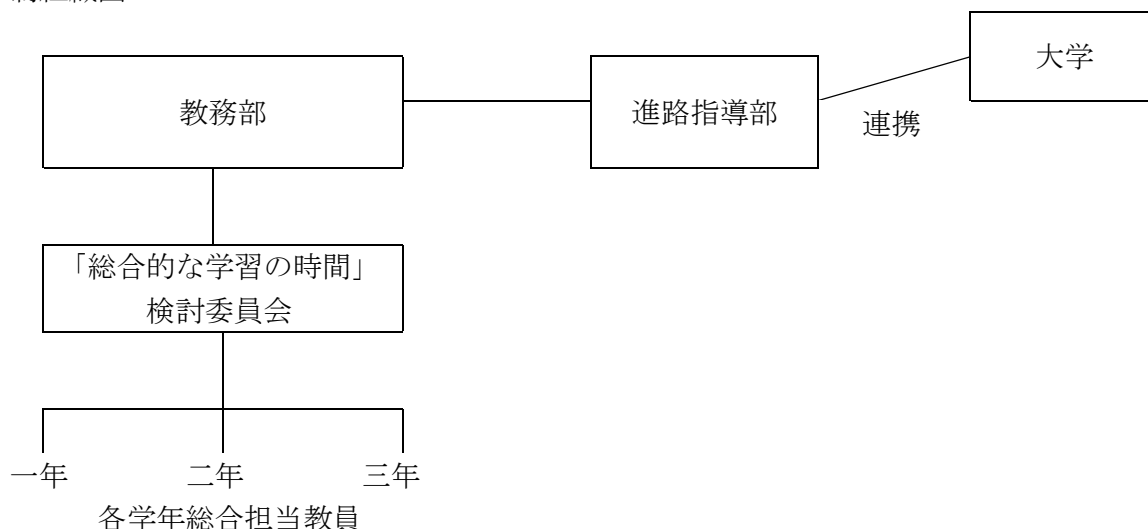
### (2) 研究主題設定の理由

大学への進学を希望する生徒がほとんどであるが、自ら学ぼうとする姿勢が乏しいと感じられる。大学の学びに触れることや郷土についての学習を通して、探究的に学習に取り組む姿勢やコミュニケーション力の育成を、「総合的な学習の時間」を中心としたカリキュラムの編成に取り組むことで目指したい。

### (3) 研究体制

本校では、「総合的な学習の時間」を全教員で担当しており、全ての教員がこの研究に参画する。ただし、「総合的な学習の時間」を企画・運営する校内分掌が教務部であり、その中心を担うこととなる。現在、進路指導部から大学の連携を図り、「総合的な学習の時間」検討委員会を中心として、この研究に取り組んでいる。

《研究体制組織図》



(4) 1年間の主な取組

平成 26年度	第一学年	① 壁新聞制作	② 分野別郷土学習	③ 国際理解
	第二学年	課題研究	1 序論作成	2 フィールドワーク及び本論作成
	第三学年	生き方探求	3 中間発表	4 結論作成 5 課題研究発表会
			1 小論文作成	2 進路に関する研究

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

三年間の「総合的な学習の時間」をいくつかの単元に区分し、以下の二点において、探究的に学習に取り組む姿勢やコミュニケーション力の育成への効果を研究する。

- 1) それぞれの単元が目標の達成に効果的であるか。
- 2) 単元の配列が目標の達成に効果的であるか。

1) 単元の構成

\* 第一学年

- 壁新聞制作 : 郷土奈良に関する壁新聞を作成する過程において、探究的な学習や協同的な学習活動を行わせ、基本となる学習方法を身に付けさせる。
- 分野別郷土学習 : 奈良の「自然・環境」、「文化遺産」、「産業」の三分野を各二講座に分け、これからの郷土学習を進める上で必要となる知識を習得させるとともに、協同して身に付けた知識を深めさせる。
- 国際理解 : 世界の子どもたちの現状を理解するため、児童労働やストリートチルドレンなどの七テーマの内、ひとつのテーマを決めて各自が調べ学習を冬期休業中に行わせる。標題に係わる講師が講演を行った後、同じテーマを選んだ者が調べた内容を報告しあい、班でまとめた発表原稿を作成する。互いの発表を聞き、自他評価を行う過程で、グローバルな視点と身に付けた学習方法をつなぐことにより、課題研究の端緒とする。

\* 第二学年

- 課題研究 : 「奈良の経済学」や「奈良の観光学」などの六分野に分かれ、各グループが設定した研究テーマについて、序論・本論・結論の流れを意識しながら、各課題について一年間研究に取り組ませる。年度末には課題別発表会を経て、代

表者による課題研究発表会を開く。課題研究活動全般を通して、第一学年で培った知識や学習方法を十分に活用させるように留意する。

**\*第三学年**

○生き方探求 : これまでに学習した知識や方法を活用し、各自の進路目標についてより深く考察させる。

**\*すべての単元で意識すること**

○主体的な探究活動：積極的な家庭学習に主体的に取り組めるような課題を設定する。その際、様々な情報源を活用するように指導する。

○協同的な学習活動：他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を行わせる。その際、指導目標を明確化することにより、協同的な学習が適切に行われるように指導する。

○コミュニケーション力の育成：自分の考えや意見をまとめ、整理し、的確な方法でそれらを伝えるための能力を培わせる。区切りの「発表会」にのみ育成のポイントを置くのではなく、全ての学習活動において、コミュニケーション力の育成機会をより多く設けるように努める。

**2) 単元の配列**

大学の学びをイメージした本校の「総合的な学習の時間」は、第一学年では広く浅く『一般教養』を学ぶイメージで、第二学年では専門研究を『ゼミ』で行うように狭く深く学ぶことを想定している。また、卒業に向けた第三学年においては、各自の進路目標に添った探究学習を行うよう配列している。

特に一年次において壁新聞制作により学習方法を、分野別郷土学習によって郷土奈良を題材とした知識を、そして国際理解においてはそれまでに培った方法と知識を活用し、二年次の課題研究につながるようにしている。また、三年次には各自の進路目標を具現化するため、それらの学習成果を活用した取り組みを行っている。

つまり、方法の習得→知識の習得→方法と知識の基礎的活用→応用的活用→まとめ、という単元配列により、郷土に対する愛着や理解を深めさせ、探究する力やコミュニケーション力を有効的に身に付けさせることを目指す。

**(2) 具体的な研究活動**

効果の検証は、学期や学年の区切りにおいて、アンケート形式で実施する。数量的な変化だけでなく、質的な変化にも着目するような質問内容となるよう留意する。また、生徒だけでなく、教員へのアンケートを実施することにより、教師の意識変化が生徒へ付けたい力の育成にどのように影響をしたかにも着目したい。

また、探究する力やコミュニケーション力を付けるため、文化祭等の学校行事全般を本研究課題の見地から見直すこともあわせて実施したい。

**3 研究の成果と課題 (11月下旬実施のアンケート結果より)**

**(1) 成果**

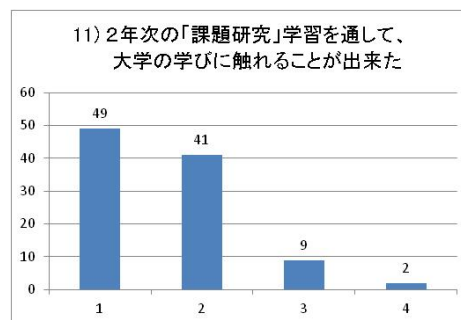
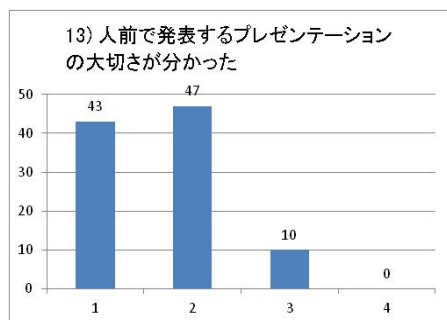
**1) 探究的な学習 (生徒アンケートより)**

○総合的な学習の時間は先生等から学ぶのではなく、自分が何か行動に移さないと始まらないという点も他の授業と違ってよかった (二年)。

**2) コミュニケーション力の育成 (生徒アンケートより)**

○総合的な学習の時間をやってきて、班員と話し合うこと、フィールドワークで知らない人に話しかけること、プレゼンテーションではみんなの前で話さなければならないことなど、コミュニケーション力が上がったと一番思う (二年)。

「総合的な学習の時間」アンケート（第3学年） 集約結果より



1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらかと言えばそう思わない 4：そう思わない

(2) 課題

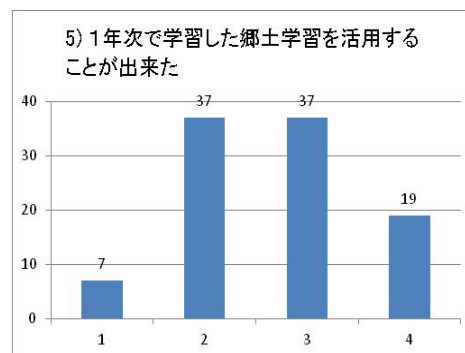
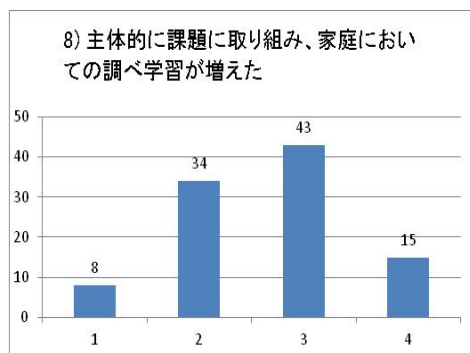
1) 教員の共通理解不足（教員アンケートより）

- 郷土学習を難しく感じた。何を伝えたいのか掴めぬまま、講義をしていた。
- 事前の準備不足により直前にバタバタした。学年としての意識を高めるべきだ。
- 一年及び二年で積み重ねた内容が三年で生かされるよう教員側が指導すべき。逆にそのような意識付けで各学年を指導できればよい。それぞれの学年がその場だけの取組に終わっては、この学習の効果がない。

2) 単元の見直し（生徒アンケートより）

- 班に分けて活動することは良いことだと思うが、しっかりやる人に任せきりになることや、何もしない人が出てくるので、そこを改善すべきだと思う（二年）。
- 良い経験にはなったが、学年が上がるにつれて座ったまま学習する時間が多くなったので、一年生の時のように、もっとアクティブな活動を通して楽しく学ぶことが出来たら良かったのと思った（三年）。

「総合的な学習の時間」アンケート（第2学年） 集約結果より



1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらかと言えばそう思わない 4：そう思わない

(3) 研究2年目に向けての取組

1) 単元の見直し

- 壁新聞制作を文化祭展示のみに留めず、ポスターセッション形式で口頭発表の機会を設ける。
- 分野別郷土学習は、協同的な学習がより可能な方法を再検討する。
- 生き方探求に関して、より探求的かつ協同的な学習が可能な方法を検討する。
- 個人及び課題別の研究ファイルを改定することや、整理した考えや意見を発表する機会を増やす。具体的には、中間発表及びフィールドワークを経てまとめた研究課題を、文化祭にて口頭発表の機会を設ける。

2) 単元配列の見直し

- 中間発表を6月下旬に早め、フィールドワークをより充実したものとする。

